

そえだ勝が「逆・介護保険」を提唱するワケ

～健康寿命を伸ばし、破たんしない介護財政を～

① 私は10年間訪問介護員でした。その時大きな矛盾が…

要介護度4

要介護度2



少しでも回復するようにリハビリし…



元気になることを目指して働きました…

要介護度とは… 軽度 ① ② ③ ④ ⑤ 重度

② 現状の介護保険制度は高齢者が元気になること
介護事業者の報酬が減ってしまうのです。

行政からの報酬が
今月から10万円
減ります…

えっ!?

元気に
なったのに!?

要介護度4 報酬約30万円

要介護度2 報酬約20万円

③ 報酬が下がってしまうことがヘルパーの
賃金にも影響し負の三重苦に…



④ その悪循環を

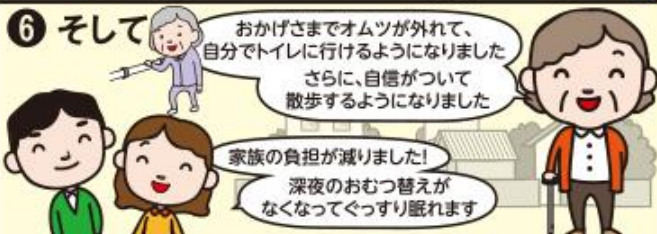


⑤ 「逆・介護保険」
とは…



高齢者を元気にする「質の良い介護」を行なう事業者を評価し、成果報酬を付与するシステムです

⑥ そして



⑦ 散歩する高齢者が増えると、街に大人の目が多くなることを意味します。



⑧ 質の良い介護で健康寿命を!!
破たんしない介護財政を!!



「質の良い介護」は
社会全体に (介護を受ける本人・介護する家族・地域)

好循環をもたらします

解説

- 現在の介護保険制度は、介護状態が悪化する(要介護度が上がる)ほど、介護事業者への報酬が増えます。
- 実際は、介護状態を改善する(要介護度が下がる)ほど、報酬は減ります。
- 「高齢者を元気にしよう」と頑張っている事業者ほど、疲弊していきます。
- そんな事業者はいませんが、「リハビリせず寝たきりにしておこう」という事業者ほど、うるおう制度といえます。

- 介護事業者にとっては「高齢者を元気にしよう」という正の動機づけが働きにくく、反対の負の動機づけとなりがちです。
- 結果として、介護状態が悪化する人が増え、高齢者介護費は膨張し、支払い介護保険料も増加。その悪循環を逆にするから「逆・介護保険」なのです。
- 「高齢者を元気にしよう」と頑張っている事業者へ成果報酬を付与し、正の動機づけを作ります。ご本人の目標やご家族の安心も大きくなります。
- 「健康寿命を伸ばし、家族の介護負担を減らし、結果として高齢者介護費伸びを抑制」、持続可能な社会保障財政を目指します。